

## 沖縄地方非常通信訓練を実施

～沖縄県総合防災訓練の一環として実施～

### INFORMATION

沖縄地方非常通信協議会(会長:沖縄総合通信事務所長)は、9月5日、沖縄県と連携し、平成20年度沖縄県総合防災訓練の一環として沖縄地方非常通信訓練を実施しました。

この訓練では、非常時における通信の円滑な実施体制を確立するため、平常時の通信システムが使用できない事態を想定し、市町村(14)と沖縄県との間において、被災状況等の情報伝達訓練を行いました。

なお、平成20年度沖縄県総合防災訓練は、沖縄県や糸満市などの南部圏域市町村の主催により行われたもので、糸満市を主会場に沖縄本島南西沖地震を想定した様々な訓練が実施されました。



【写真】沖縄県総合防災訓練開始式  
(写真提供:糸満市)

## 読谷村のコミュニティFM局に免許

### INFORMATION

沖縄総合通信事務所は、株式会社FMよみたん(代表取締役 仲宗根 朝治)から免許申請のあった超短波放送局(コミュニティ放送局)に対し、10月31日に免許し、11月1日、放送を開始しました。

#### 免許の概要

申請者	株式会社FMよみたん 代表取締役 仲宗根 朝治 (なかそね ともはる)	放送区域及び 放送区域内世帯数	読谷村 11,803世帯(100%) 恩納村 509世帯(14.5%) 嘉手納町 3,832世帯(82.1%) 北谷町 40世帯(0.4%)
呼出名称及び呼出符号	エフエムよみたん JOZZOBH-FM		
電波の型式及び周波数 空中線電力	F8E 78.6MHz 20W (最大実効ふく射電力 18W)		

## 知っていますか? vol.8

より自由でわかりやすい内容を目指し、皆様にご提供したいテーマをお伝えする「知っていますか?」のコーナーです。今回は、「うるう秒」についてです。「閏(うるう)年」は有名ですが「うるう秒」って? 「秒」というだけに時間の話ですが、情報通信社会とも深い関係があるようです。

### 「うるう秒」

今から約50年前までは、時刻は地球の自転に基づいた「天文時」で決められていました。現在、時刻を決める基となっているのは「原子時計」と呼ばれる原子の振動を利用した時計です。その精度は“数百万年に1秒”の誤差が生じる程度と高いものです。

しかし、地球の自転は安定していないため、高精度な原子時計の時刻と天文時の時刻との間ではずれが生じてしまいます。そこで、原子時計の時刻と天文時が0.9秒以上ずれないように、原子時計の時刻に調整を行った時刻を、世界の標準時として私たちは利用しています。

この標準時のずれが0.9秒に近づく度、「1秒」長く時刻を刻む調整を行い、これを「うるう秒」と呼んでいます。

では、情報通信社会と正確な時刻はどのように関わっているのでしょうか。

例えば、携帯電話の料金は通話時間で課金されます。オンライン処理などでも、複数のコンピュータが処理を行う際に、双方の処理時刻に矛盾が生じないために、正確な時刻が必要です。

このように、正確な時刻＝標準時は情報通信社会にとって重要であり、標準時に「うるう秒」が挿入されることは、私たちの生活にも影響があることなのです。

来年(平成21年)1月1日に「うるう秒」の挿入が行われます。

具体的には、午前8時59分59秒と午前9時00分00秒の間に「午前8時59分60秒」が挿入されます。

詳しくは、独立行政法人情報通信研究機構のホームページをご覧ください。